

認定工場と整備技能士

～まかせて安心！ 認証工場と整備技能士のいるお店～

1. 農業機械の整備工場の認定

整備工場の設備充実への努力

農作業の安全と農業機械の効率利用を進めるためには、農業機械ディーラとして、整備工場の充実と整備技術の向上が重要になります。そこで農林水産省は整備工場の充実のために基準（農業機械整備施設設置基準という）を定めていますが、その内容は、

1. 小型農機の整備を主に行う施設(小型施設)
2. 中型農機の整備を主に行う施設(中型施設)
3. 大型農機の整備を主に行う施設(大型施設)

の3種類に整備工場を分類し、それぞれに必要な施設基準（従業員・屋内作業場・車両置場・機械設備・移動整備車）と、管理基準（整備関係事務事項・整備技術事項・施設及び労務管理事項）となっています。



農業機械ディーラの整備工場は、この基準に基づき、都道府県知事の認定（承認）を受け、社会的に信用される認定整備工場になります。なお、基準に適合しない非認定の整備工場も存在しています。

農機整備工場は、整備需要に見合う適正な設備投資が必要ですが、過剰な設備投資は避けるべきです。そのため、小型・中型・大型と分類されていますが、農業機械ディーラと整備工場にはそれぞれの持ち味と特徴があり、医療機関にたとえれば、1. 日常お世話になる地域診療所（ホームドクター）、2. 特別なときにお世話になる専門病院、3. 大学病院などの総合病院とそれぞれに社会的な必要性があるようなものです。農機の利用者には小型・中型・大型にこだわらず、それぞれの良さがあることを理解し利用していただきたいものです。

農業機械整備施設の種類

分類	呼称	内容
小型施設	小型機械整備施設	小型機械の整備を主に行い、かつ、中・大型機械の分解を伴わない定期点検整備が可能な施設で、2の施設基準の小型施設の基準及び3の管理基準に適合するもの
中型施設	中型機械整備施設	中型機械の整備を主に行う施設で、2の施設基準の中型施設の基準及び3の管理基準に適合するもの
大型施設	大型機械整備施設	大型機械の整備を主に行い、かつ、中古農業機械の再生整備及び機能確認が可能な施設で、2の施設基準の大型施設の基準及び3の管理基準に適合するもの



2. 農業機械整備技能士とは

整備従業員の技能向上への努力

農業機械ディーラーでは、認定整備工場としての設備の充実を図るとともに、「技能の国家検定制度」によって整備担当従業員の整備技能の向上を図っております。

「農業機械整備技能士」は、昭和50年に国家検定が開始されてから、1級（上級）と2級（中級）合わせて延べ6万2千余名がその資格を取得しています。

整備技能士による都道府県単位の技能士会の全国組織である「全国農業機械整備技能士会」は、技能士の技能レベルと社会的地位を向上させることに努めており、所属会員のなかから「優良技能士」の表彰を行っています。さらにそのなかから現在は極めて少数ではありますが、卓越した農機整備技能の保持者が選考され、「現代の名工」として国から表彰されています。

近年、農業機械の分野は、大型化とともに自動制御化がますます進んでおり、エレクトロニクスと油圧工学の分野の技術の導入が著しく、それに対応して農業機械の安全性の確保と効率的利用のため、より高度の整備修理技能が求められてきています。整備修理のプロとしての農機整備技能士が果たすべき役割はますます大きくなっています。



3. 整備施設と整備技能士の評価

海外技術協力でも期待は大きく

開発途上国援助（ODA）の農業機械の整備修理施設設置事業では、計画段階から農業機械整備施設設置基準の「小型施設」のなかの施設基準が参考にされ、とくに機械設備の内容が貴重な参考にされています。

「その国と、自分を育てる、2年間」のキャッチフレーズの青年海外協力隊は、意欲ある若者や学生に人気が高くなっていますが、その隊員募集では農業機械整備の職種は派遣要請の重要度が高い場合が多く見受けられます。そのため、隊員希望者が技能習得の目標としているのが農業機械整備技能士の受検です。協力隊隊員募集試験のときも、また実際に派遣国での協力実務においても、農機整備技能士の資格は高く評価されているといわれます。また開発途上国で非政府組織（NGO）や非営利組織（NPO）によってボランティア活動を行う農業関係者においても、農機整備技能士は高く評価され、農機整備技能士は歓迎されています。